

患者情報、クラウドで共有 岐阜地区の病院・介護施設



「TGPネットワークを通じ、地域の医療や介護サービスの連携を深めたい」と話す松波英寿会長＝28日午後7時30分、羽島郡笠松町田代、松波総合病院

初年度は参加施設数を地区全体の60%、患者登録数は5%を目標に掲げる。協議会に岐阜市医師会は加入していないが、システムは岐阜市の施設も利用して情報を共有する。

共有する情報は、各施設が保有する患者の病名や処方、血液検査のデータ。患者の同意を得た上で共有する。初めて受診する医療機関でも過去のデータを基に治療を受けられ、薬局は既往歴などを参考に細やかな服薬管理ができるようになる。訪問看護ステーションや介護サービス事業所では

6月めど、運用開始

各務原市や瑞穂市など岐阜地区8市町の医師会などで構成する環岐阜地区医療介護情報共有協議会(TGP)は6月をめどに、インターネット上のクラウドサービスを利用し、医療機関や介護サービス事業所が患者の医療データを共有するネットワークシステムの運用を始める。多職種間で連携を深め、データに基づく迅速な医療や介護サービスの提供につなげる。(亀山大樹)

治療方針や病状を踏まえたサービスの提供を想定。さまざまな端末で簡単に利用でき、電子カルテ導入の必要がない利点がある。

従来の医療情報連携基盤システムは、病院から近隣診療所への一方通行の情報伝達にとどまり、煩雑な手続きなどから参加施設や患者数が伸び悩んでいた。TGPは総務省の補助金を受けてシステムを構築する。協議会の設立総会が28

日、羽島郡笠松町の松波総合病院であり、各市町の医師会や歯科医師会などの代表者が出席。会長に選ばれた松波英寿羽島郡医師会会長は「地域の医療や介護サービスの連携を深めたい」と述べた。